

風"s・風のたよりオンライン版

2001/2/6 No.38

この号から、文字を少し大きくすることにしました。

バレンタインデーによせて

「世界みんながHAPPYになるといいな」...チョコの話....

■チョコの材料「砂糖」「カカオ」から..

今私たちの生きている世界が、どのようにして今日のような姿になってきたのかを、砂糖という身近な食べ物からみてもませんか？ 一見したところ、おたがいに何の関係もないような世界各地の人々の生活が、相互に深くかかわりあっていることを理解できたらいいなと思う企画です。

★砂糖革命

プランテーションとは、熱帯・亜熱帯地域の植民地で先住民や黒人奴隷の安価な労働力を使って砂糖・たばこ....などの商品作物を栽培する大農場で、世界市場むけに大量生産されています。

砂糖きびプランテーションの展開による変化を「砂糖革命」と歴史家はよんでいます。17世紀後半からのジャマイカ、18世紀末以降のキューバなど、カリブ海の島々のほとんどは、道路も学校も住宅も人々の生活水準そのものも劣悪な状況で「開発途上国」といわれる状態にあります。このもとは「砂糖革命」にあったのです。

★三角貿易

奴隷貿易を中心とする三角貿易によって、アフリカ・ヨーロッパ・アメリカの三大陸は、はじめて本格的に結びつけられました。ヨーロッパからは、綿布・鉄砲・ビーズを、奴隷と交換して南北アメリカやカリブ海で売り、砂糖（綿花）を獲得してヨーロッパに還る。奴隷は最低でも1000万人以上といわれています。ポルトガル・イギリス・フランス人がこの非人道的な商業を熱心に展開しました。

★カカオと砂糖

今日見られる「食べられるチョコ」は1847年にイギリスでカカオにバターと砂糖を加えて固形チョコレートとして作られました。カカオもプランテーションの代表作物ですが、この砂糖との出会いで、『世界商品＝近代初期の世界で広く取引された商品、もしこれを独占できれば大きな利益を得ることが出来る商品』となりました。

★プランテーションと農薬

砂糖もカカオも、プランテーションといわれる先進国の大資本による大規模農園の代表的な作物です。プランテーションは生産効率を上げるため、熱帯雨林を大規模に破壊して作られた広大な土地に、単一作物を栽培しています。

農薬もヘリコプターにより空中散布されたりします。先進国で禁止されている最も危険な農薬12種類のうちの9種類を含めた30数種類の農薬が、そこで働く何の知識も持たず、知らされることもない労働者の体を蝕んでいます。それだけではなく地下水も大地も汚染されます。毎年2500万人の農業労働者が、農薬中毒に陥っていると推定されています。そんな劣悪な労働条件であろうと、土地を奪われた農民たちはそこで働かざるを得ない状況にあるとのです。

★何気なく食べてるチョコレート

私も、その裏側の世界と歴史に、フェア・トレード(公正貿易)に関わって初めて目をむけました。チョコレートに限らずコーヒーや紅茶の裏側にある世界も見えてきます。いずれも砂糖とは深く関わり、「砂糖のあるところに、奴隷あり」の歴史があります。その状態がどう変わっていつているのか、変わっていないのかに対して、無関心ではいいのでしょうか？

■フェア・トレード(公正貿易)のチョコレート

その(1)ボリビアのココア

★エル・セイボ

カカオ小規模農家の強い味方「エル・セイボ」は南米ボリビア

北部のアルト・ベニ地方で、カカオを栽培する小規模農家860戸からなる共同組合です。長年にわたり彼ら山岳農民は、トラックなどの輸送手段を持たないことにつけ込まれ、仲買人にカカオ市場を牛耳られていました。そのため農民の暮らしは困窮し日々の暮らしもままならず、子どもたちはいつもお腹をすかせていたのです。

農民達は仲買人を「コヨーテ」と呼び、恐れていました。彼らは、60年代から70年代にかけて、こうした迫害や搾取に対して勇気を出して協力して立ち上がりました。それが「エル・セイボ」です。

★途上国で唯一の加工施設

スイスの団体の支援を始め、世界各国のフェア・トレード団体組織との取引を通じ、一步一步発展を遂げました。途上国で唯一の共同運営のカカオ豆加工施設により、山岳地方に点在する農家から作物を集荷し市場へ出すシステムを確立しました。

★生産者の環境は、私達の健康とつながり、地球環境にもつながる.....

生産の400～500トンのうち、250～350トンがヨーロッパのIFOAMのオーガニック認定を受けています。それに対して、一般的なカカオのプランテーションでは32種類もの農薬が使われます。働く人々の健康、大地、地下水を犯し、私たちの口にも入る、目に見えない栽培状況に思いを馳せなければならないでしょう。

その(2)フィリピンの「マスコバド糖」

★封建時代をひきずる途上国の砂糖農園

アジアの砂糖産出国のひとつ、フィリピンのネグロス島では、大規模プランテーションで働く労働者は、最低賃金さえ保証せず、奴隷のような生活を強いられていました。借金の前借をして、その返済のために子どもや孫の代まで農園で働き続けなければならないという、非常に封建的な雇用関係に縛られていたのです。

★1986年砂糖の価格国際価格の大暴落

ネグロス島は飢餓に襲われました。30万人の砂糖労働者が、農園を追われ路頭に迷う事になってしまったのです。しかも土地を持たない彼らは、自分が食べる作物を栽培する手段もなかったのです。

★「顔の見える国際協力」

1988年に、福岡地区の生協連合の人々が飢餓のネグロス島を訪ねた時のことです。しかし、「生協の人びとが、いのち、暮らし、自然を守れと叫んでみても、現地へ行って実際に目の前にしたのは、そのいのち、暮らし、自然を根こそぎにされる現実だった。主語もなく叫んできた、いのち、暮らし、自然。いったいだれのいのち、暮らし、自然なのか。日本の私達だけが守られればそれでいいのか。結局日本の生協メンバーのエゴだったのではないのか」という強烈なショックを受けて帰ってきたそうです。それからネグロスと日本の消費者の交流が始まりました。保険衛生・有機農業の普及を含め、自立資金にあてるお金を含む価格設定をし、新しい国際協力システムをつくったのが、マスコバド糖やバランゴンバナナなのです。

「カネはさすが、顔は見えない」という援助とは違っているこのモデルはこのように始まったのです。

■バレンタイン・デーに思う

～カカオの木をみたことのない「北」の人々と

チョコレートを知る「南」の生産者の人々のこと

チョコレートタイムは、幸せタイム。

私も大好きです。疲れた時など元気エネルギーをもらっています。でもチョコの主な材料のカカオの木を見たことがありません。熱帯の木ですから当然かもしれませんが、逆に南の人は、カカオの木は知っていてもチョコレートの味を知りません。どうしてでしょうか？

生活に追われる南の生産者の人にとって、北の国で作られる嗜好品であるチョコレートの味を知らないことを想像できますか？ とはいえ、私もそんなことを考え

て食べているわけではありません。でも一年に一度チョコが街にあふれる二月に、そのことを一緒に考えてみたいと思います。

■第4回「リアル・バレンタインコンサート」&ワークショップのお誘い～2月10日(土)午後1～4時

そんなことを思い「リアル・バレンタインコンサート」を開き、参加型の国際理解教育のワークショップを企画しました。今年で4回目です。「コンドルは飛んで行く」で有名なfolkloreは、アンデスの風を感じる民族音楽です。カカオの故郷ボリビアのナマの音楽を聞いたあと、ゲームで楽しみながら、何かを気づく「今までにない時」を過ごしてみてください。案内は[GAIAの会のイベント情報](#)にありますのでご覧ください。

■贈るなら、フェア・トレードのチョコ!

美味しい! とリピートの多い人気チョコです。風"sでは、ペルーのインカ模様のオカリナ(200円～500円)やナスカの地上絵をデザインした足付き子皿(600円)など小物を組み合わせた楽しい提案もしています。

チョコレートの種類は通信販売を参考にしてください。

プレーンチョコが200円、他ミルク・ナッツなどは230円、バニーチョコは500円(ミルクチョコ)です。お友達にも紹介してまとめて注文して下さい。待っていま～す!

《参考文献》は下記のものより

■風"sの書籍販売の定番の一部です

*「砂糖の歴史」岩波ジュニア新書 川北 稔著 640円

歴史を学ぶことは、いま私たちの生きている世界が、どのようにしてこんにちのような姿になってきたのかを、身近なところから考えてみることだとあとがきで述べています。

*「共生の大地」岩波新書 内橋 克人著 660円

今日に明日をつなぐ人びとの営みが経済なのであって、その営みは決して他を打ち負かしたり、他におもねったりするというものではなく、存在のもっと深い奥底で、そのものだけで、いつまでも消えることのない価値高い息吹としてありつづける、それが経済とか生活というものではなかったでしょうか。おぞましい競争の勝者だけが、経済のなりたちの決め手であるはずもないのですから、とはじめに

述べられています。

他にグローバルヴィレッジのパンフレットより。

★フェア・トレードとは....

フェア・トレードとは、発展途上国の有機栽培食品や手工芸品等を、公正な価格で取引し、仕事創りから技術支援もする、世界のNGO(非政府組織)を中心に繰り広げられている草の根交流です。より多くの人々が、フェア・トレードによる商品を選んで買うことが、発展途上国と共に生きる方向が見えてきます。

『GAIAの会』は、1996年5月発足。女と男、老人と若人、障害をもった人と今そうでない人、南と北の国の人、自然と人...「共に生きる」をテーマに互いに学び合いながら行こうとする誰でも気軽に参加できる会です。
